

急高野獨案内

ル 4
6312



124
1312

高野略縁記

94-59

目錄

○弘法大師 御御書

○權知河海一々の事

○よきもの名不古の道法

○高野山神祇社佛南院

并 眞院石塔の圖

○ぬり 權上法御書

古實書盡 大門口の表

並 高野山神祇社佛南院

高野山神祇社佛南院藏書

我々天下に遊ば照るは

惟赫日萬物成りて

只氣風大なる匡て

海小のそのれと

匿るひ法運已不

世作まじ澆漓小

光仁天皇の御書

わりの讚波國

小母極挺生れ大士

母の阿力氏

高

と云く候中れ又月小光輝外
の夜異者内小童一忽一人の
神童神夜せり法の續室毎
初為登壇せられ御必る金剛
妙喜廿一年物を十七日小
より弘法大師と仰せ送るのみ
せれりの寂實に遊談と慕
ゆひ二十家ありあり泉加村尾山
勤探せられゆえに判装修終
ゆ方と成心法界官小澄しゆ
ゆを山海小投を西万物と救ふ
ゆあり小判清茶三子之歳起歴
廿二年仲夏十二日來法のゆあり

奏前して正之位越前大守藤原
朝臣能成遺唐使ゆて鑑
唐土貞元二十年五月廿二日
後列ふるの法宗白皇帝奏
して宣陽坊に回定ふりて法宗
五葉山小登り文殊菩薩像内出礼
一青蓮寺に法果阿闍梨有
兩部不二法と清の山の師
佛れ道付目小極於信正覺此
河小用の年の慶元元年
仲秋小法宗白皇帝一席給れを
奏前の老多し明列の律ゆあり
唐音小打むい唐をぬ有給れ

君城へ取りて下しこころを投
りし我朝大周初小様とあかじ
流小様宗の親善奇小若せまふ
同二年仲秋小初小海をさあふ
我れ内院と之を秘して外用と
一節小施し先と日域小映りあふ
一掃の法と求むるに流小法難れい
とあかくはに七年昔比家しこ
ま中すいさふ京老く小痛人
黒白れあ夫と古建しあふゆさ
あふ小おられ日汝小あ人あふ
か藍建すしと勝地とつりし
勝地と桶人の日をもり南り

あり紀伊國傍郡小未世
不返轉の希るもの君城つり
之を山尊一築むる事あ
萬のあふ流日中常小好雲
さあひさ深水小若光結く
と一あ流たふ家之國之双
乃君のつりまゆいしく若也藍
さん甲さうのくハ吾又也後等
一と折言くかさ階やう母
うせあふ和列大畑の里をえ
おれらつりけ地城さう日あひ
政所意考伝ふ事とせしあふ
流黒白れあ夫つりくさあふ

わさるとあきし奉り天重あ
丹生を新あ天の神ふいしあ毫
湖ふの神い宛宣ふそれ我信山
之南は海浪り水は天和川
浪り来ハ大掌山の之は西ハ
直神の寄浪りわさ寄附
ましと宛りあまよりわさ
まの寄ふさり浪り信ふ体
体も伽藍建立はれと世に
あふ一掃あはれわりのあま
けねろ光めを信ふと信ふふ
則明あは律より授きあふ
之結より痛人のあふまらま

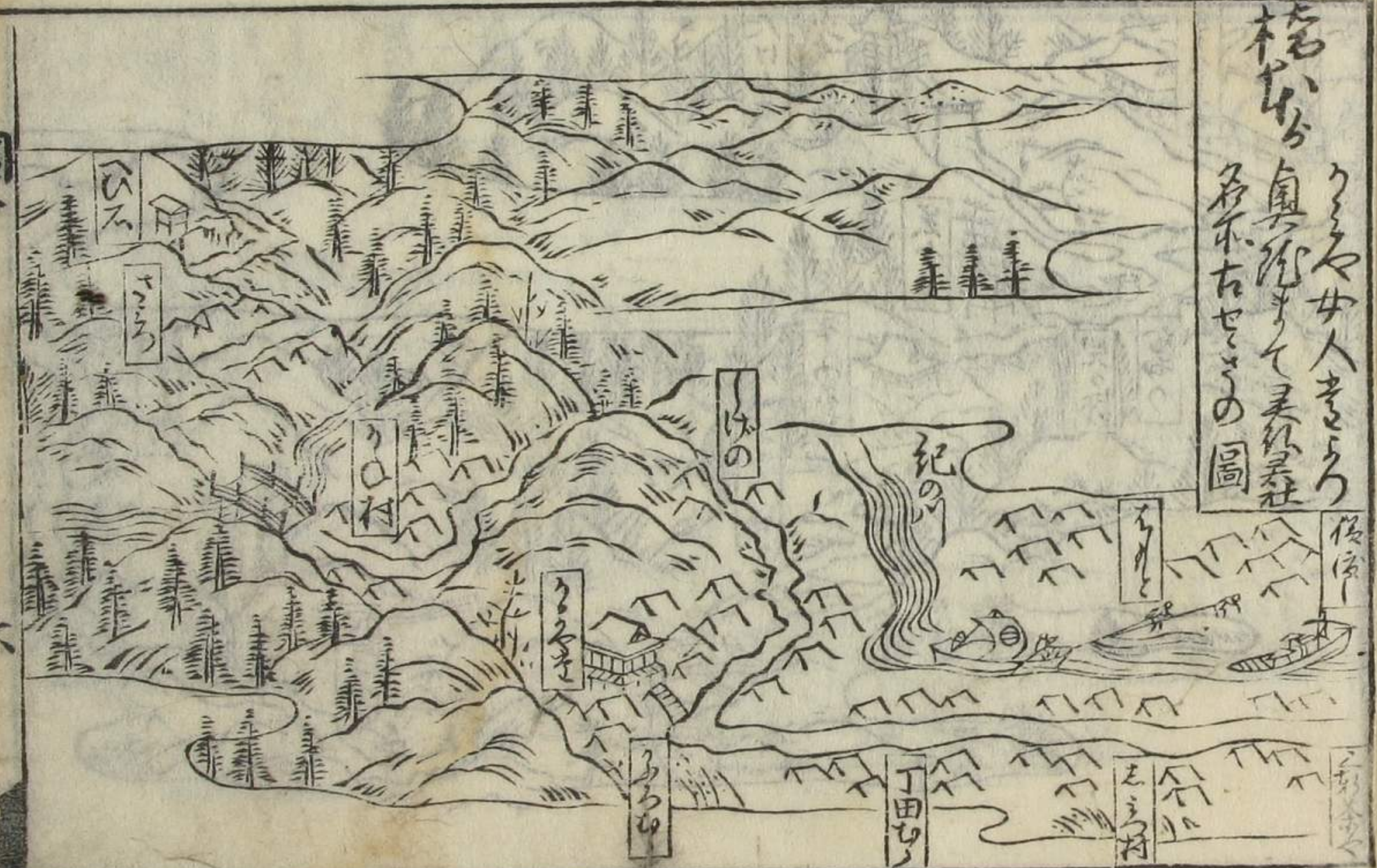
其比をりんを日夜大塔洲
建立はれと信拂志あふり
又天宝鈕并一卷れ秘神伝
塔前 信ふと信拂れ 旧基
明くしり 帝は帝あはさ
うを勅使るく故宝紐とあ中ハ
右の殿後有 神ああのみは
主後此奉りあまのあはあまに
此草唐紙踏ひあひあまに
しと信あふり海す今れは彩堂
乞ありの弘仁七年小造初開十年
皇月之思ふあまのあ十七百四西
大塔造年別口と信胎藏界の

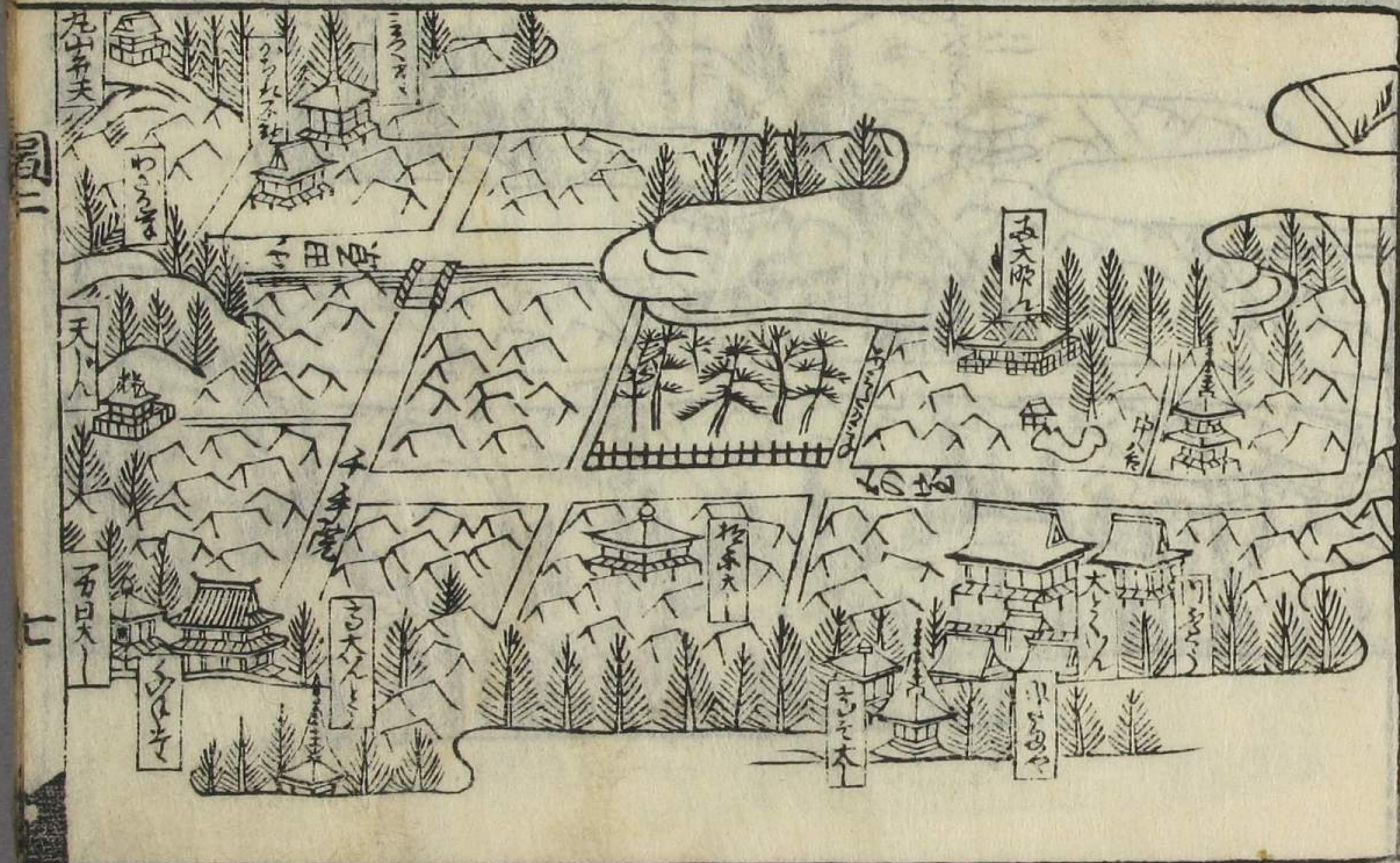
大日金剛界に比して安直一南天
の終極と表し、今次小字九院乃
金寺、地空此肉院と極一四十
九院に於て攝成、亦、佛本尊の令る此
藝師如來と安直一、於、人、を、外、寺、
塔、覺、と、り、く、之、處、ハ、寺、を、安、直、乃
將氏集舎一日、夜、ハ、法、を、れ
池、園、ハ、極、極、極、極、ハ、常、如、我
倅、れ、り、也、向、吟、漢、流、れ、流、り、茶
そ、ま、の、文、と、唱、ハ、完、ハ、五、日、者
ハ、高、く、一、て、其、院、の、月、又、朗、ハ、胡、ハ
創、并、奉、令、創、等、と、り、く、ハ、何、ハ
承、和、武、年、晚、春、ハ、仲、ハ、五、日、ハ、和、ハ、る

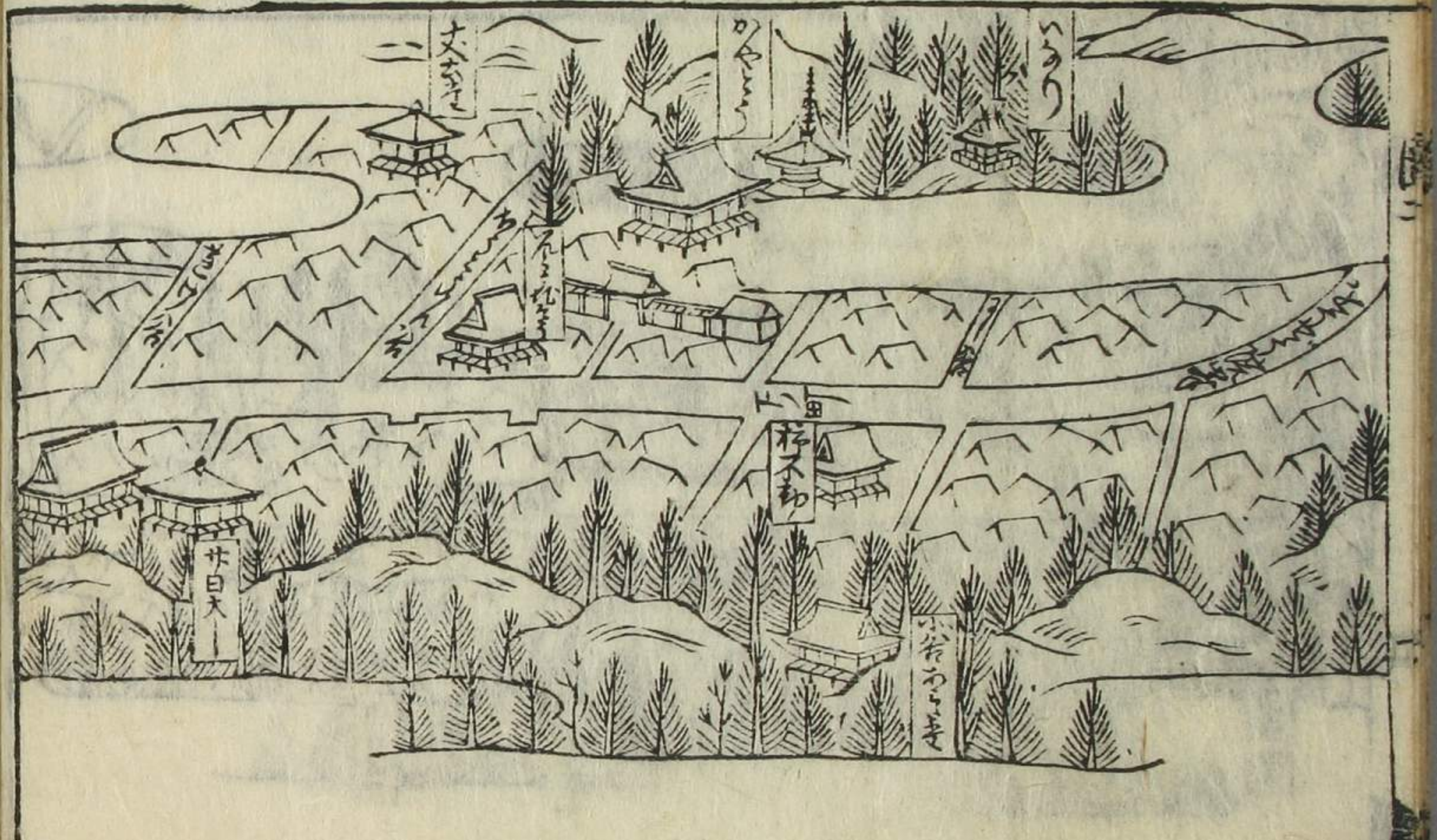
瑜伽觀法の、所、ハ、お、つ、く、吾、業
亦、一、日、ハ、入、夏、と、り、く、と、法、の、す、ま、ま、
ハ、佛、ハ、れ、同、升、一、日、宣、の、刻、ハ、今、宣、
ハ、海、ハ、く、極、極、極、ハ、十、方、堅、聖
隆、と、つ、ご、之、世、の、諸、佛、極、極、極、
其、地、ハ、若、神、着、く、に、是、と、ま、り、
其、意、流、れ、ハ、金、地、ハ、り、天、師、の、曰、
一、夜、ハ、奉、ハ、不、其、極、運、ハ、事、ハ、世、極
乃、飛、騰、道、中、ハ、滅、ハ、法、遠、覺、ハ、
吾、宗、佛、ハ、外、の、ハ、之、意、ハ、加、お、と
り、つ、て、其、所、成、佛、と、極、極、極、
有、終、ハ、佛、ハ、不、送、ハ、ハ、
其、宗、ハ、系、法、の、人、ハ、一、見、字、極、極、

永離之惠乃の益我孫思為
 志きれ汝位神く中岳舎那れ
 松信小いり佛と共小華林園那
 伽補忍波れ其れ花盛小其
 をらん事一念之執疑と生る
 事あり水海小祖神小一月名
 甚深不思儀須弥聚れ筆巨
 海帯の取もを空く了ん
 一因縁とあつめ略記と
 天海唯色部患養れ信見れ病不
 せらり也昔享保十九甲寅松主月陽
 穀且

松信の
 真形すて其の
 名不古せの圖









志留山なる志留

一紀別橋なる志留村、一里

無不世傳の舟師いさく大坂

天満住川屋仁系施主

▲三杉堂 ▲清水村 ▲町田村

一志留又河村、河根村、一里

世承ふおねい石弘法大師杖の瑞

苜蓿さふいれ墓承あ甲

▲志留天祥 ▲志留中村

一河根村、紙谷、一里

無不檀有、曼陀羅の樹丹波

後由建立 ▲志留村 ▲屋比岩

は天竺の神毎月とす月並流

新向きし海

一紙巻道と女人堂、五ナ丁

け間、前堂子息石ぞう丸にて

あふ寧静徳の本ゆり

△尺寸岩 け息言せ丸園あり

△不動坂 け坂に十八まがりむむ

大神袖温祭壇袖四文わしてに十八

おれろをゆりあふ内け坂に十八

まゆりあふ踏分りゆきしまら

昔老るる言れゆ路しゆい身も

とまらあふ内多うさに十八まがりあふ

ふけ坂多うさ坂多うさふと言れゆ石坂中者

△外不動 け息言せ鏡の西化し

坂止ふ堂あり況しとあり坂

△岩不動 け息言せ鏡ありあり

花彩坂け止ふ大神め神へ女人堂

け息言せありあり

△嶽山并然天 女人堂中より乃乃多

花彩色くくくありあり有大門あり

△一ツ井戸

△女人堂 け息言せ下ふ礼とより内

女人さんせい

△錐鋤不動 け息言せ大神の西化

△内の不動 け息言せ四同化八大

童子よりかり運きて他化しあり

花彩工造と云

▲塔 山内道一字金輪 乃勝上人
西へん甲う

▲丹生 西大明神 此神社之大
乃此二九甲う之并心字が地あり

▲新利帝宮

▲大徳院 公方様御宿坊別

▲東照権現公此山玉殿あり

▲阿比施り峯 妙常山寺此寺定

ありしゆ人あつぐとて

▲極宗大神 弘法大神此十二歳

乃此所神自他亦刻をせぬ

▲山の堂 山内道不動明王此自

此神と此山神此五化あり

▲千手堂 南向山内道西手千手

并脇土不動毘沙門及び若者の化

天智天皇此山宮及小角宮其基

▲一方日堂 山内道弘法大神

▲権杖不動 小田原初合祀者

此山内道大神八尾の所此自他

▲弥勒堂 南向山内道此山勸修

▲乃山無天

▲妙常堂 山内道八尾寺此山内

乃此山内道形此之聖徳太子此山

多小此山あり

▲柿不動 遍照光院此あり

▲大神 山内道

△萱堂 北を東向七百に西

内を多の年親号大師の由能之
多れ州へ
帝号上人開基中真法燈玉碑

光仁上人仁王八代後深草院
初形示康元年中造立上京

上生れ家者前萱堂及心住しの子
七孝之他蓋の由之并此形を御

御言ハ立和親王此七之筆之
△引道寺地蔵 北向之石室西に本

多ハ弘法大師兼和二年三月
十九日小造り也まふ

△井目大師寺 南向大師由能
乃此形水の坊清浄地蔵三つ

△万葉羅音 同谷三つり泉別
岸智田城之号親善廣智及師

二ん中
△丈六堂 西向三つり如來
其自れ由能あり

△由能宗明通上人の南基
子中柱 大師三つり加持の親

茲をより物せしめしあり

△天橋 又一の橋もいふ真の元
由能前を二十町の間たはふ其佛

君社勸誘し由代天子於軍
大名少名町人百姓に石塔并一か

寺院廟塔つりし一室に記す

▲犬乃磨石

▲常我見守り石塔并大碓の虎

少ねた石あり

▲あつり石塔 宿坊名義院

▲玉川 け川水の手記石不毒地

か流しといふ所より流あはれとく

あはれ川大陣の脚海分り

去れてまゝとてあつらん藤人の

言中々おくれ玉川をいふ

▲多田満仲公五掃石 浄宿坊

室檀院谷壇後院

▲救取地蔵 ▲腰かけ石

▲蛇柳 大陣初めけ宗の石

多田河々五掃毒蛇とありとあり

人言不通れ海山之故不此蛇之

大陣お初めあり又十町藤大碓

乃毫後之流といふ不之掃掃を

ありふし河毒地あり掃掃を柳

新流うらつこをそまふ今不此

又月白灯の流の毎の海碓成

ありふしとあり

▲中乃橋

▲権掛橋 仁王三十二代源成天皇

乃此宮大陣入宮方とてさるる

多田河小天皇朕早世れ後ハ和尓

川導形とていふ川小田を流

年なりけり申し勅答を問ふ神
 吾お定して所^以祭^初すべしと
 學^ん始^め承^和九年文月十青天白皇
 前^所の遺^詔沿^ふまう也^の權^をさぶ
 の^も事^不魚^あせ^給中^を印^し
 し^くば^あせ^した^あひ^にさ^に駕^連下^九
 事^りの^まを^終す^極成^りこ^そ奉^りけ
 揚^小柳^の大神^の申^定有^り申^事
 詔^も奉^る也^し事^りは^極れ^ん
 大^坂の^而の^事小^淺分^りと^奉り
 事^り又^極る^成す^る也^あら
 行^かさ^る城^藏者^の也^な事^り石^段
 乃^城を^大伸^れ也^は也^の事^り也^の

事^りも^あれ^ば之^界を^生の^事
 し^くと^助けん^のの^誓を^今
 毎^日年^に刻^らり^未れ^冠す^て一^身
 小^汗を^流す^る

▲^市影^井 又^薬井^もり^あん
 延^喜の^奉れ^し申^初言^揚
 惟^辛く^極り^也申^事也^の事^り

け^也の^も忠^平人^也▲^英授^堂
 ▲^法慈^堂上^人送^修小^の事^り
 多^し刻^の月^を此^流之^事也^の事^り

▲^葛山^建立 ▲^次信^丸石^塔
 ▲^七石^塔七^石塔^の事^り
 事^り

木食店 初列 藤山 安等 寺 寺 法
因基 幻世 示 皮 食 勤 修 妙 妙

▲ 護摩堂 高 向 中 平 言 不 知 何 主
知 建 之 由 他 元 來 淨 院 此 有 不 有

伊 與 計 不 引 出 食 性 共 因 基
求 剛 持 堂 由 本 寺 又 大 虛 空 院

大 治 身 才 業 福 上 人 之 言
▲ 濟 供 所 南 向 圓 形 十 百 書 以

八 百 寺 本 寺 每 年 天 大 神 此 他
所 入 堂 存 書 為 大 法 之 經 卷 此 由

寺 子 六 人 日 須 上 殿 塔 之 寺 乃 乃
少 飯 者 寺 寺 寺 供 養 世 寺 寺 寺

寺 寺 佛 師 之 寺 山 位 廿 八 人 塔 足 寺 定
毎 月 六 人 之 佛 師 寺 寺 寺 寺 寺

寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺
▲ 淨 廟 檜 中 式 君 板 敷 廿 七 枚

金 剛 界 之 十 七 寺 此 種 子 板 敷 敷
小 乃 乃 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺

め の 為 小 大 師 師 師 師 師 師 師
寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺

仁 王 六 十 八 代 二 條 院 之 由 寺 寺 寺
三 年 癸 十 月 十 七 日 法 儀 寺 寺 寺

入 道 寺 下 坂 原 板 敷 乃 寺 寺 寺 寺
乃 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺

寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺
寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺 寺

明通杖 明通上人 杖杖杖
杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖
杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖

杖杖杖 杖杖杖

孫勒石 大脚七郎 杖杖杖

杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖

杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖

杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖

杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖

杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖

杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖

杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖

杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖

杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖

杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖

杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖

杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖

杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖

杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖

杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖

杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖

杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖

杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖

杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖

杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖

杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖

杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖 杖杖杖

納大神 德宗皇帝より傳るる
念珠并 所針りり

▲骨堂 南向の南堂にあり

佛の大師 所造好より建

之 何れ白され 善根法吾より

抄る人八頭 不生死の苦境

之 安乃加 約力めて二世 此を

成能 永く 涅槃の樂を

い 志のんの 智骨堂に 遺る

し ありわ ぬる 男婦に 骨堂を

納の 子す ぐと 何れ 今れ 半を

精別 松下河内 寺元 徳に せん

▲御廟 南向 宝形 堂に あり

宝塔の 大師 高野の 標り

何れ ひとく 慈悲の 心

まを 國民に 福利と する

佛の 身系 成つが あり

され 慈悲 徳に あり

有る こと あり 山乃 志

大師を いま あり

▲丹生 西大明神 御廟 あり

高野 あり

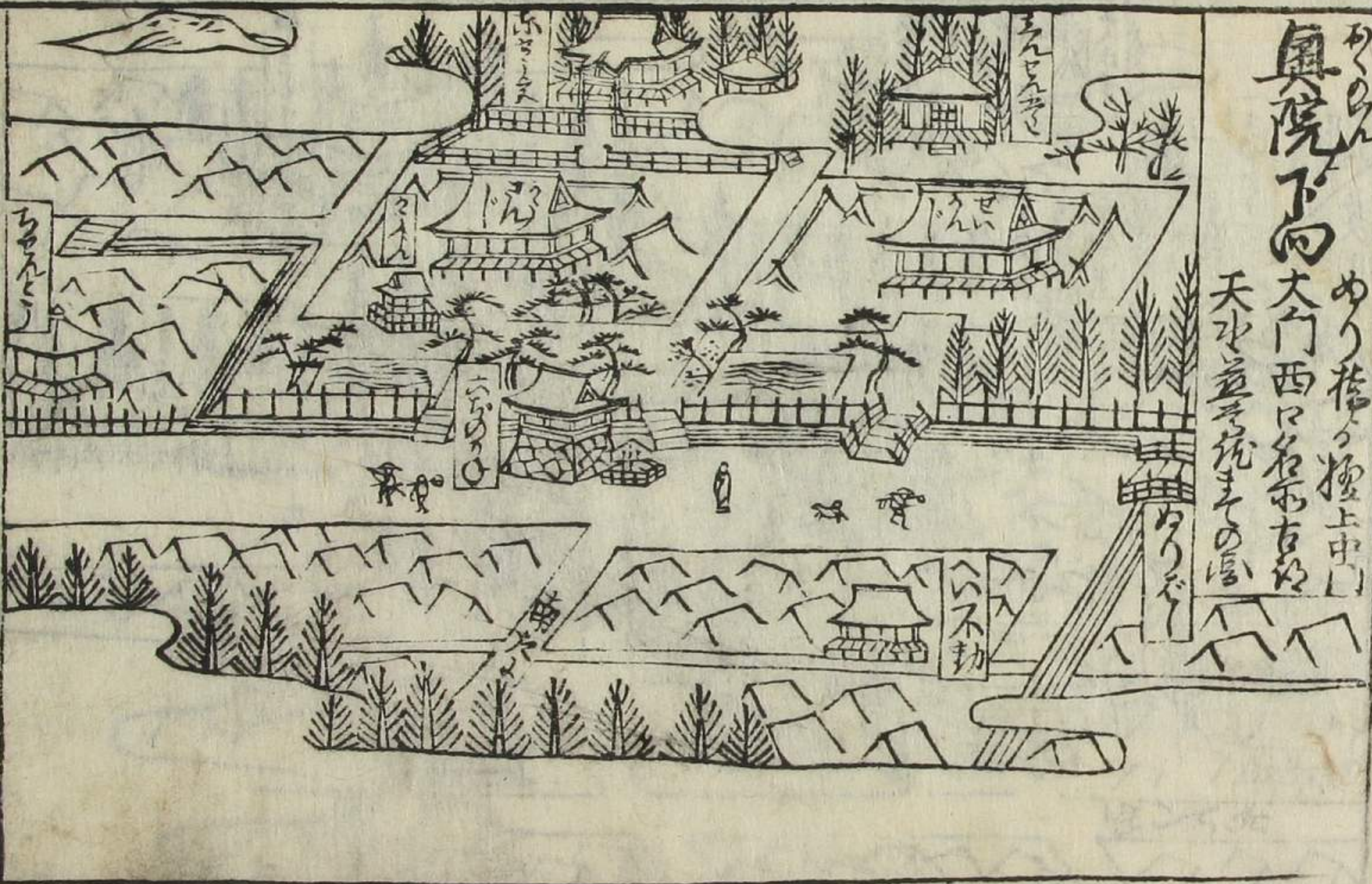
ゆめ あり 新の あり

い 大師を 祀り あり

一切 経藏 あり

▲石田 治の 精舎 あり

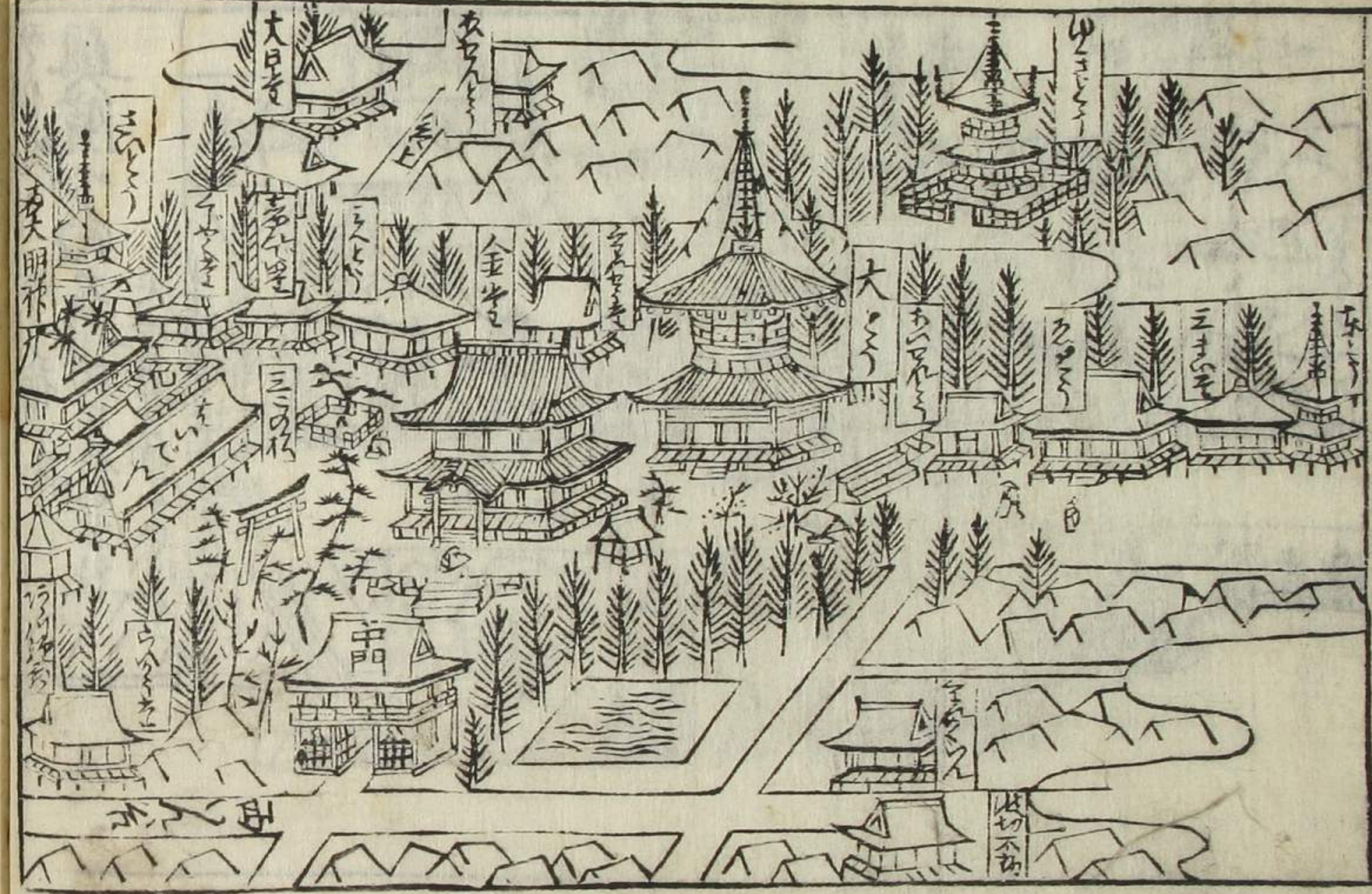
▲關御井 大師 あり



真院下向

ゆり袴の極上中門
大門西口名東古殿
天守並土蔵まの雲

天正廿年鑿鑿水加巧力ありてや
 好い青龍のけりもくさくさ乃
 井蓋小川月華の橋有毎夜寅刻
 小蛇の竜堂丸願加よる小若一宗
 石名所れは龍王様より海軍石叶
 言所山又新村山より六人馬道山
 傳軸山大洲山ありこの道なり
 之の河川埋の道あり
 摩尼山如意家峰と埋あり
 揚柳山如意橋新長城あり
 あり玉橋乃大堤絶所あり
 物袖山摩尼山揚柳山合
 之山あり又日非峯山あり





▲ぬれ檜 俗ぬり檜といふ

▲青嶽寺 志茂寺といふ

▲真山寺 東照権現公の社有

▲六時鐘 先年甚毒大虫福徳

左邊大支正則唐去より傳れ

かゆありて西建立しつゆふ

▲敬帝不動 大陣の山尾南溪

二実方院 といふ

▲波切不動 御同他同谷南院

小つり

▲勸学院 南向七百箇所あり

大目形衆の後を招いたるに唐元

甲辰松源親朝公の御世

仁安二年 破懐分中 建久八
 丁巳歲 西の方と奉りて 西の邊
 七後龜山院 中より長三年 成益
 平河親入道 西明寺 自身の
 西舞具

檀上諸伽藍

▲東塔 南向六間 四面之 七丈
 中七丈ハ 金色ハ 高勝佛と安直
 崇徳天皇 弘和 永大治二年 十月
 一 供奉
 ▲之味当 南向四間 高ハ 令別
 乃大日 御尊 安直 乃東 萬代

流高僧 劫也 入里 康和三年
 沐生 又日 乃六口 乃之味 妙
 ▲書堂 南向十間 四面 高ハ 宜
 高ハ 山 高ハ 金色 丈六 乃
 法苑 并 白檀 札 釈迦 支那 乃
 之 又 之 流 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 法神 治承 元年 十月 九日 造
 ▲新学堂 南向六間 高ハ 宜
 八名 之 流 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 建久元年 八月 十六日 中 將
 光長 小將 今有 勝 乃 乃 乃 乃
 世 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 同廿二日 乃 乃 乃 乃 乃 乃

瑜祇塔 南向六層西之七丈
内なる胎藏界大日之土塔傍心
寺建之之後並に塔寺並に
ため再興

▲大塔 南向十七層西之五丈
十七丈又尺但九階水櫃之七層ハ
去丈六尺乞ハ外院十六層塔之各
柱上ハ中ノ給ハ西界方荼羅之
由ナルハ胎藏界大日由長天九尺
八寸并金剛界尺以由長二丈
之天又寸之寛水七寸十月四日災
燒失内小塔並に塔寺并同九年
十月四日新始同十九年八月の造業

おらる平相國法盛山自筆此

大方荼羅維と納多ハ内條少多此

▲灌頂堂 南向八間半西之五丈

五層一方荼羅 并八祖大神法壇

大神此由新ハ法室此由筆之に寄

長如親王此由新不直德之幸造平

▲御影堂 南向九間半西之五丈

實多惠徳此由新ハ大御所

在也此由持佛堂之土如親王

所之ハ新此由新ハ御影堂ハ大御

所之ハ新此由新ハ御影堂ハ大御

大御所御影堂此由新ハ御影堂ハ大御

櫻子うらなをあふふ之は枯く門かけけたたふふ之は

▲集懸堂しゆけんどう 南向みなみむき之は多たにに西にしむむき

築懸しゆけん親おや大おほ神かみ比ひ化け之は年とし出いだだりり

五いつ之は大おほ神かみのの也なり也なり也なり也なり也なり也なり

食たきき小こ松まつ天てん皇こう比ひ化け之は也なり也なり

▲孔雀堂くわんぐうどう 南向みなみむき七しち男なん半はん四よ百ひゃく許こ

七しち之は多たにに西にしむむきき六ろく條じょう修しゆ心しん迦か果くわ

設たけけ行ぎやう者しや他た佛ぶつのの也なり也なり也なり也なり也なり

乃な由ゆ小こ佛ぶつ之は也なり也なり也なり也なり也なり

以も彩さい所しよ 之は也なり也なり也なり也なり也なり

▲新由堂しんゆどう 南向みなみむき七しち男なん半はん四よ百ひゃく許こ

乃な多たにに西にしむむきき六ろく條じょう修しゆ心しん迦か果くわ

覺かく法ぽう親おや王おう比ひ化け之は也なり也なり也なり也なり也なり

▲鐘樓堂しゆろうどう

▲西塔さいたう 南向みなみむき七しち男なん半はん四よ百ひゃく許こ

今いま劉りう界かい大たい日にち并な胎たい藏ざう界かい比ひ化け之は也なり

大たい神かみ也なり也なり也なり也なり也なり也なり也なり也なり

別べつ小こ和わ天てん皇こう比ひ化け之は也なり也なり也なり也なり也なり

多たにに西にしむむきき六ろく條じょう修しゆ心しん迦か果くわ

▲七經藏しちけいざう 文ぶん珠しゆ橋きやう之は也なり也なり也なり也なり也なり

序しよ也なり也なり也なり也なり也なり也なり也なり也なり

也なり也なり也なり也なり也なり也なり也なり也なり

之は年とし出いだだりり也なり也なり也なり也なり也なり

▲大明神たいめいじん飾しやく社しゃ 東ひがし向むき 南みなみ山さん三さん房ぼう矣や

法ほふ仁に十じゆ年ねん又また月げつ廿にじふ日にち以もつ法ほふ大たい神かみ亦また

勸かん請しん也なり也なり也なり也なり也なり也なり也なり也なり

惣社 東向二百半四西麻利
交天并十二王子百井伴社
拜殿 東向南水十三間東
西七百半

六角堂 東表堂は白丁二十
七名安樂門淨苑も少くも
金色粧也此は鎮座金匠此一
御まの煙の魁号書海曲院也
乃のあふゆん甲子 新州洞あり
園如井 け井を天立と稱す
池よりかた力あて白毫の口
涌出る水あり

天氏芝同鞋掛のねは芝大塔
より赤申やあり芝より大
曼堂小高りけ骨は法之の秘也
け山の如法上人も於奉化
志のふみ無取く身をも
そより湯ありて世に
依 抄子

金堂 南向七間西也七
田多金堂也此
今金別業塔所
藏障子世大障の中
七間尺而八七に十九院
此表す中檀金

寛正親王久安二年八月朔日
七云多塔小佛舍利二粒赤直のり
壹ハ二階造り 浴誠天皇の清
殿あり

▲鏡樓堂 同日西の坊あり

土田の佛あり 土田の佛あり

下の池あり 毫の堂あり

今の佛あり 今の佛あり

▲中門 東西十二間南北六間

日天寶意佛あり 日天寶意佛あり

二天像東ハ持国天 西ハ多門天 佛降あり

乃任人能あり 乃任人能あり

真院あり 真院あり

丁の小長あり 丁の小長あり

都の佛あり 都の佛あり

令の別あり 令の別あり

大橋中橋あり 大橋中橋あり

毒のとあり 毒のとあり

引の入あり 引の入あり

一の大門あり 一の大門あり

南の小あり 南の小あり

之の門あり 之の門あり

令の之あり 令の之あり

之の門あり 之の門あり

令の之あり 令の之あり

令の之あり 令の之あり

令の之あり 令の之あり

令の之あり 令の之あり

一丈七尺の金剛力士二王六帖碑
 法皇法皇文德慶長二年九月十日
 法皇御福之誓下九通公の御
 願御まらうと後世に傳へ之様
 年中迄宗始まり宝永二年小
 徳寺二王八運長康兼凡他之
 ▲子中次大所月徳寺の御
 ▲七本杖次堂の坂崎さうら
 見がれとてつり
 ▲岡屋世不多の室の御
 多野先達あるは徳寺の御
 可もて徳寺の御
 乃との御

▲徳川 此水と大陣御
 いけのふと小徳川大徳寺と
 山長谷徳寺ありと川とあり
 ▲不動石 井大黒石 乞まて
 法教教くまを喜まて
 けり忽國寺と成し御
 御迎をせのし徳寺の御
 けり小徳寺ありとあり
 ▲鏡石 けり光ありと宛し
 古徳寺のこころ
 ▲徳海 けりありとあり
 けり小徳寺ありとあり
 ▲七色石 けりありとあり

をせぬまで根藤れせしらん

▲角石 大陣の母君の角石

のがんとしちかく母君の角石

火色は赤あまふ下石石あり

▲焼尾 びりりりれ古砂今う

やけてありあり

▲押上石 大陣は石は利し

まひ津母君を入る出るとをを

まふあふみかれ縁今ふりえ

▲捨石 四母君のあ子れ山一切

のりささ年とい情くさるあ

捨せぬありあり

▲加波沙樹石 治古の勢を石を云

大陣津母君のあまををけし

あまををけし大陣のあまを

交君は山の日城に双八葉の葉

影の諸侍を色葉を白流布れ

君は津津津萬里の妙小遊探

してあまを七里の内小遊探

素ふりく悪摩の鬼と他方

少き津津津母君のあまを

守ありて夜やみ深れ中人は

善江は盡れもあられ尺寸と登

事叶はて吾國母を七月捨

あまを河小母を云ふあまを

捨ふ不思淺地を云ふあまを

大神別々原か家御打つけいよを
之させのふと有るを因母天二人
させあをひししくいのちめ 倣ふまねをさす
龍あぬらり出あぬらり

▲長坂赤坂のり

一 長坂赤坂のり 天燈さえて二里

け宗家族のり此坂をとも正影を

ともいふ神の神の切れ格を

名ありり是ゆへ宗家の宗を

▲地藏堂は寺の寺の神のゆえ

▲後字井の井底大神別

身は宗家後字さうせいゆい

茶の妙心をめあふ此水腹周

これ六波羅の御守り

▲天井坂并 不和野

一天野の 慈尊院より一里

▲二ツ島井 弘仁十年又月旨

大陣は建平のあふ

▲南沢沢 さらさら川

▲まを板割 悪が割

▲鬼王道の宮地 ▲西沢の寺

▲八幡宮 ▲舞臺

▲あかし ▲西供所

▲百廿伴 十二王子

▲四社大明神 并 糸殿

▲薩摩原 ▲外乃宮

竹勝の宮 ▲ 岸の宮

塔 ▲ 山樂寺

宝藏王衣 ▲ 行者寺

山王寺 乞ハハ山王寺を多あり

一切神宮 ▲ 善井 并 友福

如法海の杖 ▲ 舍利堂

祝言柳 ▲ 八王子

壹累社 ▲ 奥の宮

天神宮 ▲ 脇の宮

天中伽藍取并々新の寺一記

ぬの塚山 ▲ ありむこ山

善光院 比不七寺伽藍の土地に

に方築地伝海天皇行持建立

勝利寺 ▲ 観音寺 子易

のきんおんといふ

地蔵寺 ▲ 粟一ぬれ

塔の尾 ▲ 弁天

七社大明神 ▲ お愛 并 善井

浄徳寺 ▲ 大日寺

大黒寺 ▲ 寺

二ツ石 ▲ 新利寺

浄徳寺 大脚の母をけりてい

らせりし別とくむらさきとありあふ

寺いん ▲ 護摩寺

矢お海山 ▲ 徳光つづり

皇都書林軒見孫兵衛開板

